北海道旭川永嶺高等学校図書館だより　2020年度　第3号　　2020（令和2）年6月1日（月）

ＹＫＫ　読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは。図書館の仕事に日々打ち込んでいる伊丸岡です。

やっと学校再開ですね。唐突ですが、「こんじきが」って、聞いたことありますか？ボクが中学生の時、初めて昼の放送でマイクに向かってしゃべった放送部の先輩の第一声が、「全校生徒のみなさん、こんじきが」でした。緊張のあまり、「こんにちは」というべきところ、ろれつが回らなかったのでしょう。以来、ボクの人生の辞書の中には「こんじきが」というワードが燦然と輝いており、こうして通信などで「こんにちは」と書く（打つ）たびに、頭の中には「こんじきが」が共鳴する、へんなクセが付いてしまいました。

ナヤンデルタール人のつぶやき

さて、きょうは「配架」のお話。配架とは、本の配置、どの棚に収めるかということです。

図書館の本は基本的に「十進分類法」で並んでいます。たいてい3桁で、000から999までの番号（分類記号とか請求記号といいます）が付けられ、本の背表紙の下の方に、その番号が印字されたラベルが貼ってあります。その番号順に本は並べられているので、返却本ももとあった棚に戻せるわけです。本の住所です。

ただし、大型本（たとえば美術全集）や、複数巻でセットの本（たとえば全13巻の『大漢和辞典』）、おなじく全集ものと呼ばれるセットもの（芥川龍之介全集とか、日本古典文学全集）、さらには、文庫や新書といった、判型（本の大きさや形）でそろえた方がいい本は、十進分類の棚とは別に置かれています（これを「別置」といいます）。図書館に入ったことのある人はわかりますよね（入ったことのない人はいないか？）。

そこで、です。

たとえば、先日、本の汚れふきをしていた「100　哲学・宗教」の棚、全8段のうちの最上段、脚立に乗らなければ手が届かない棚に、

『高校生のための哲学入門』　長谷川宏　ちくま**新書**　請求記号104
『「待つ」ということ』　鷲田清一　角川**選書**　請求記号104
『じぶん・この不思議な存在』　鷲田清一　講談社現代**新書**　請求記号111
『なぜと問うのはなぜだろう』　吉田夏彦　ちくまプリマー**新書**　請求記号110

といった「新書」・「選書」たちがはさまっているのです。

自分という存在、他者との関わりを究めるのが思想や哲学の分野。その入門書、高校生にもわかりやすい新書版が、専門書にはさまって、しかも手の届かない最上段にあるというのはなんとも・・・。鷲田清一（わしだきよかず）さんなんて、よく国語や小論文の入試に使われる。みんなにはぜひ手にとってもらいたい本。

こうした本は、本来の分類記号の場所に配架されるのがいいのか、それとも「新書コーナー」の棚にある方がいいのか、じつに悩ましいのです。

「こんな本があるんだな」という発見と、「どうしてこの場所にあるんだろう」という疑問と、いろんなことを考えながら本の汚れふきに勤しむ毎日であります。1段分本拭きをすると雑巾がまっ黒になります。本の「地（立てたときの底の方）」から飛び出ている「スピン（しおりヒモ）」は、出したままだとすり切れていくので本文の中にたたみ込んで。ところで、この「スピン」、当初はどこの文庫本にも付いていたそうですが、経費削減のため中止され、いまでは文庫本ではほぼ新潮文庫だけになっています。知ってました？

なお、日本文学作者別（あ～ん*）の棚を初め、全く違う場所へ戻されている本を発見することがあります。

「蔵書検索」をかけたら、「ある」ことになっていても、現物は「ない」ことになってしまう。こうした本の迷子にならないよう、もとあった場所へ戻したり、おかしな置き場所の本を発見したら、適切な場所への引越を手伝って下さいね（*「ん」で始まる名の作家はいませんが、では「わ」までなのか、「を」はどうなのか、これまたナヤンデルのでＲ。なお、「あ～ん」は、「あからんまで」と読むこと。念のため）。

本の引越し

前回、新書と文庫の棚の位置を入れ替えたことをお知らせしました。とくに、人気のラノベ系は一番奥まった窓際のコーナーに集めてみました。以前、ここには、おそらく授業か何かで集団読書のように使ったと思われる、同じ本が複数そろえられた新書がごそっとありました。このコーナーのみならず、基本的に複数ある本は、1 冊のみ書棚に残し、あとは書庫に格納することとしました。また、ほとんど活用の見込まれない古い本、全集も書庫に。新しい本が入らなくなってきているからです。里さんには連日大活躍していただいております。

また、「岩波ブックレット」という薄い本がごっそりありました。

「岩波ブックレット」は 1982 年創刊、2019 年までに 1,000 号も発行された、時事問題をコンパクトにまとめた 70 ページ前後の小冊子です。1 冊に 1 つのテーマで、タイムリーな時事問題を扱っています。が、そういう性質の本ですので、すでにテーマが古くなってしまったものも多く、そのまま書庫に移動しました（480 冊！）。

もし、こんな本があったはず、この作家の本はあるの？と思ったら、カウンターで尋ねてみて下さい。コンピュータで蔵書検索して、現物を探すのをお手伝いします。もしかたら出張中（貸出し中）かも知れないし、迷子（別な棚に紛れている）のかも知れないし、かくれんぼ（書庫にしまわれている）のかも知れません。

さらに、どうしてもうちの図書館で買ってほしい、他の人にもぜひ読んでもらいたいという本は、購入のリクエストをして下さいね。

なお、同じ作家でも、単行本の棚と、文庫本の棚、両方探してみましょう。次の項で紹介する、重松清のような例もありますし、俵万智さんの『サラダ記念日』という歌集は、詩集の棚にはなくて、文庫本の「た」の列に収まっています（これは詩集の棚、単行本の間に挟めた方がいいのか、また悩む）。

お勧め１００番台 ～ 敬遠するなかれ［哲学・宗教］

100番台～哲学・宗教という、ちょっと近寄りがたい棚の本清掃作業から目についたお勧め本を紹介します。

『生き方』　稲森和夫　サンマーク出版　請求記号159

生き方の智恵、現代社会のとらえ方など、自分のことから世界のことまで、ものの考え方とらえ方のヒントを与えてくれます。2004 年刊行以来 100 万部のベストセラーということです。著者は京セラ、KDDI の創業者。

『仕事も人間関係も「すべて面倒くさい」と思ったとき読む本』　石原加受子　中経出版　請求記号159

前掲、稲森さんの本は、日本を代表するような企業経営者の堅めの人生論でしたが、こちらは心理カウンセラーの説く現実的、等身大の生き方論。それにしても長いタイトルだが、これ、ボクのこと？って思った人は中をのぞいてみよう！

この棚にはほかにも「空海」「キリスト教」「般若心経」「ローマ人の知恵」などといった、いかにもたこにも哲学・宗教の本も並ぶが、我らがシゲマツの本も見つけることができる。

『みんなのなやみ』１・２　重松清　理論社　請求記号159

これもお勧めだ。重松清は 913 番、日本文学単行本のところにも、文庫コーナーにも並んでいるが、なぜかこの本は 159 番。人生相談ということなんだね。中高生の身近で素朴で深い悩みに答える重松さん。「ピアスしちゃダメ？」「『付き合う』ってどんなこと？」「親の宗教から抜け出したい」などなど、おもしろいよ。そんな悩みを持っている中高生もいるんだ、といことに気づくこともまた勉強になるかも。

100番台には神道・仏教・キリスト教のほか、日本人にはなじみの薄いイスラム教の本も当然ある。世界人口の約25%もムスリムがいるので、これからはいっそう身近な存在となていくことでしょう。ムスリムについて理解を深めたいと思ったとき、100番台だけではなく、200番台の歴史（世界史）、300番台の社会科学（政治・国家と宗教）、新書コーナー（岩波・講談社）と、各所に計32冊存在します。館内ぐるっと探してみてね。

切り抜き拾い読み

「人生は本来『不要不急』」　養老孟司　5／12　朝日新聞　エッセイ
「かあさんのせなか」　浅田次郎　5／24　朝日新聞　インタビュー

「おなじ本」なのに・・・

『フランス人は 10 着しか服を持たない』　（第 1 巻とします）
『フランス人は 10 着しか服を持たない２』　（第 2 巻とします）
という本があります。刊行時は話題になった本で、ボクも 1 巻目は読みました。

さて本校でもこの本は蔵書しています。ところが、「第 1 巻」の方には請求記号159 が付けられており、「第 2 巻」の方にはなんと590 と付けられているのを発見しました。きょうだいなのに住所が違う、夫婦だけれど別姓、みたいなものだろうか？

159は「人生訓・教訓」

590は「家政学・生活科学」という分類です。

それぞれの本を受け入れ（購入）したときの図書館担当者の解釈（分類）がこんなにも違ったのですね。

さらには、この本は「社会風習の立場から見た衣食住」というテーマだとみれば、「383」という分類記号も考えられるかもしれません。図書館の本の分類記号・請求記号というのは、つくづく奥が深い。

なお、『フランス人は 10 着しか服を持たない』は 2 巻とも、とりあえず 1 巻目の159のとなりに 2 巻目もおいておきます。

「おなじ著者」なのに・・・

『置かれた場所で咲きなさい』　渡辺和子　幻冬舎　請求記号159

2012年刊、230万部超というベストセラー本です。判型が新書より微妙に大きめなのですが、新書の棚に配架しています。渡辺和子さんの著書は、新書版で幻冬舎、ちくまプリマー、および文庫版でも刊行されていて、数は多くはないものの、あちこちに置かれています。置かれた場所で咲いているのかも知れませんが、探しづらい著者ということになります。

ところでこの本のネット上の感想は両極端です。

「上から目線」「置かれたが恵まれた場所だったから、そこで咲ける。もともと恵まれた境遇」「置かれた場所で我慢して、自分をごまかして生きて、幸せになれるのか」「変な本が売れる変な時代。いる場所は自分で選ぶ」と、けちょんけちょんな批判がある一方、「すばらしい」「心洗われた」「この本のおかげで困難を乗りこえられた」「私のバイブル」と絶賛する感想も多い。

ネットに書き込む人にはいろんな人がいます。とにかく批判したい人、批判することで鬱憤が晴れる人、自分は絶対に正しいという神がかった人、自分が良かったとおもうことを人に広めようとする人。

みなさんもこれまでいろいろと見聞きしていることと思いますが、一つ言えることは、ネット上の言辞は真贋相半ば（しんがんあいなかば＝本当とウソとが半分半分）しているという構えで読むべきだと言うこと。とくに匿名記事はなおさらです。

学校にもよく「批判」「苦情」の電話がかかってきますが、たいてい匿名です。

ハマル・イマル

図書館の仕事はたのしい。学生時代に公共図書館でアルバイトをしたことがあります。貸出・返却のカウンター業務と、棚戻しという単純作業でしたが、当時（昭和 50 年代）としては先進的な設備（蔵書管理のコンピュータ処理）を導入した図書館でした。

通常の学部卒業単位のほか、「国語」「書道」の「教員免許」を取るための講座、「司書教諭」という資格をとる講座、「社会教育主事」という資格を取るための講座と、4年生までめいっぱい学校に通いました。単位数だけで言えば、学部を2回卒業するくらいの単位数。たいへんよく勉強しました。学費の2倍分、大学を活用したことになります。

実際の図書館の仕事は、初任校の最後の1年くらい携わったかな。爾来30年ぶりくらいでしょうか。ことしは毎日本に囲まれてホントに愉しいです。人生、いつ幸運に恵まれるか、わからないものです。

名作渉猟　～水無月（6月）に寄せて

相　聞

芥川龍之介

また立ちかへる水無月（みなづき）の
歎（なげ）きを誰にかたるべき。
沙羅（さら）のみづ枝（え）に花さけば、
かなしき人の目ぞ見ゆる。

（大正14年）

なかなかいい詩でしょう？

これは、ボクが高校1年生の時の現国（今でいう現代文）の先生が、6月の詩として紹介してくれて、ノートの隅に書き留めたものでした。いい声の先生だったなあ。若い女の先生でした。この詩のように、毎年6月になると思い出し、三十数年、生徒に紹介してきました。

ああまた6月が巡ってきた。あの人に出会った 6 月の悲嘆をいったい誰に語れようか、誰にも語ることはできない。ただ、沙羅（ナツツバキ）の枝に花が咲くと、今はもういない、いとしい人の瞳がオーバーラップされて見えてくる

そんな意味だろうか。

じつは先日、新築したわが家の庭のシンボルツリーに、この沙羅（ナツツバキ）を植えました。『平家物語』の冒頭にも、「沙羅双樹の花の色」って出てきますよね（釈迦の沙羅と日本の沙羅とは別物らしいが）。

6月といえば、太宰治の誕生日でもあり、玉川上水に入水して遺体が発見された日、「桜桃忌」がやって来ます。6月19日です。

むかしの中高生は、「太宰にかぶれ」た人も多かったのですが、いまはどうでしょう。『人間失格』なんか、高校生のうちに読んでおきたいですね。ボクは『津軽』のタケとの再会シーンが好きです。

太宰治の本名は「津島修治」といいます。それが、強い津軽弁なまりの太宰には「つすますんず」と発音してしまうコンプレックスから、このペンネームがお気に入りだったというエピソードもあります。この前、ネットで太宰の本名を「島津修治」と書いてあるものを見つけました。何度も何度も、最初から最後まで、「島津」なんですね。太宰のファンなのか、素人研究者なのかわかりませんが、お気の毒な方です。だれか教えて差し上げたらいいのに。ああ、ネットはコワイね、っと。

太宰の作品で明るく健康的なものは『走れメロス』『富岳百景』『津軽』くらいですが、暗く不健康な（でもないのですが）太宰の世界にもこの機会に足を踏み入れてはいかがでしょう。

太宰の生家「斜陽館」

太宰・芥川の本は何冊あるか？

ところで、本校の図書館には、太宰の本は何冊あるのか？

「著者名」で探すと、34冊。「書名」で探すと17冊。

「著者名」というのは、著者が太宰治となっている本で、単行本、文庫本などで、太宰の作品を収めている本。加えて、「新潮現代文学全集」や「ほるぷ日本の文学全集」などの一部として太宰の巻となっている本。こうしたものが34冊あります。文庫の棚や全集の棚などにあります。

「書名」で探すというのは、本のタイトルに「太宰治」が入っている本。主として太宰論や太宰の研究・紹介本。でも、「著者名」と重なる本も出てきます。それは全集の1冊である場合。

同じく芥川龍之介が著者名となっている本は30冊。一見、太宰より少ないような気もしますが、30冊のうち、『羅生門』や『蜘蛛の糸・地獄変』といった単行本や文庫本が15冊、全集系が15冊。芥川は短編が多く、全集に収められている作品数は膨大です。しかも、芥川はこれまた膨大な量の詩、俳句、短歌、評論等も残しています。そんな中に冒頭の詩「相聞」があります。

そうだ、図書館へ行こう。

6月はそのほか、10日の「時の記念日」は由来も制定も古い記念日。

23日は、第二次大戦の終盤、わが国唯一の地上戦と言われる「沖縄戦」終結の日で、現在は「沖縄慰霊の日」。摩文仁の丘の「平和の礎（いしじ）」がある平和記念公園で沖縄戦没者追悼式が行われます。

時の記念日の由来、沖縄戦の実相など、図書館で調べてみませんか？　沖縄関連の本を、企画展コーナーに展示してみたいと考えています。　＊新聞切り抜きコーナーに「社説」も新登場！

そうだ、図書館へ行ってみよう！　（文責　伊丸岡圭一）